

# にじのこ めーる

**季刊誌 VOL. 72**  
2015年6月  
特定非営利活動法人にじのこ  
理事長 松平 みえ  
〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-3-9  
ミールズキ 603  
Tel:03-5314-2488 Fax:03-5314-2544  
URL : <http://nijinoko.jp>  
e-mail : [mail@nijinoko.jp](mailto:mail@nijinoko.jp)

## INDEX

### 巻頭言

#### 「ゴーヤ1号」

理事長 松平 みえ

#### 通常総会報告

平成26年度事業報告  
平成27年度事業計画

#### 「アメニティー

フォーラム19」  
須藤 恵子

#### 「バザーを終えて」

バザー委員長  
深川 麻子

#### 「あ」からはじまる

ティにじのこ給田  
渡辺 一充

### にじのこ

#### サポーターズ

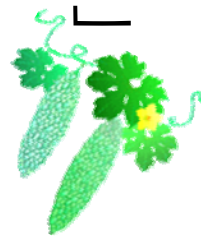
「こどもたちとともに」  
朝辻 有世

- にじのこの動き
- THANKS

今朝 我が家で穫れたゴーヤ1号を夫がゴーヤチャンプルにしてくれて朝食となった。それほど苦くなく美味しく食べた。3月末から年間計画、総会の準備、バザーと目まぐるしく、にじのこのそれぞれの事業所は忙しく過ぎてきた。私は全体的な責任もあるので自身の相談支援事業以外の仕事にも目配りし、その仕事量は半端でないが、その合間をぬって連休前にゴーヤの苗を烏山のJAの販売場で購入。隙間のないカーテンを目指すには本葉が5〜6枚になったら茎の先端をさみで切り葉数を増やしカーテンを密にするために子づるを伸ばす等と説明書を見て、どこをどうやって切ったらいのよと迷いながら適当に切つてつるを伸ばした。その結果の第1号であった。

6月になり、利用計画案の作成や更新のための作成を抱え込んでしまったため、約束までの時にと焦るばかり。期限に間に合わせるのは至難の業であったがなんとか終わらせて、一息つき、金曜の夜には「東京における知的障害者相談支援体制を推進する会結成準備会」の相談支援専門員学習会に参加。明治学院大の中野敏子先生による学び。翌日は成育医療研究センターで行われた世田谷区における医療的ケアを要する障害児・者等に関する実態調査報告会に参加。社会福祉法人むそう&成育医療研究センター医師等による障害児者の在宅支援の今と未来のシンポジウムもあり、2日間続けての学びは大層刺激的であった。

## 「ゴーヤ1号」



知的障害者の方と重心障害者と対象は異なり、内容も相談支援専門員の関わり方の学びのグループワークと医師・看護師中心の調査報告との違いはあったものの、両者に共通したのは保護者の方々がいかに長年、障害児・者の我が子と向き合い抱え込まざるをえない状況にあったかであり、課題を感じにくくなっておられる場合(実際は自分で解決をせざるを得ない状況で生活をしてきた結果)に支援をどのようにしていくかを考えさせられたことである。

言葉で表現できない児童や障害者1人に対して、相談支援専門員としてのどのように本人と向き合うのか、課題を先取りせず、人生の伴走者として、本人・家族の気持ちに寄り添い、周りと連携し、周りを巻き込んでいくか重い役割をこなしているのだと改めてその重要さを感じた。

我が家にはゴーヤを初め、ノウゼンカズラ、クレマチス、ハツユキカズラ、木苺、ジャスマミンとつる性の木が多い。あちこちに手を伸ばしながら手をつないでいくことで目的を果たし、繁茂していく、美しい成果をえられるようになれるとよいと改めて思った。

(松平)

## にじのこ サポーターズ

ボランティアさんから  
スタッフまで にじのこを支えて  
下さる方々をご紹介します

### 第39回

にじのこの子どもたちと迎える夏も早いもので4度目となりました。にじのこの出会いは街で見かけた職員募集のポスターでした。夫の仕事の関係で住んでいた上海から東京に戻り、生活も落ち着き子どもに関わる仕事ができればよいと考えていた頃でした。にじのこで初めて活動を体験させて頂いた日、いざ子どもたちを目の前にして緊張している私に、子どもの方から近寄って来てくれて、さっと私に手を差し伸べてくれました。それからは、とにかく子どもたちをよく見て、職員の方々の子どもたちへの関わり方を見て、真似できるところから真似をしながら試行錯誤の毎日。あつという間の3年間でした。今日まで続けてこれたのは、子どもたちの笑顔、素直な心、

## 「こどもたちとともに」

あさつじ すみよ  
朝辻 有世



### PROFILE

デイサービス赤堤を中心に、ヘルパーとしてもお世話になっています。英語教諭や多言語グループ(ヒポファミリークラブ)のスタッフの経験を生かし、子ども達の豊かな表現力を引き出してくださっています。家に帰ると、サッカー大好き男子高校生のやさしいお母さんです。

やさしさに支えてもらっているからだだと思います。楽しくてワクワクしている時の笑顔。ほめられた時、上手くいった時の満足な笑顔。照れたような笑顔。にや〜とした顔。そんな笑顔が大好きです。「朝辻先生」と名前でも呼んでもらったり、同じことで笑い合ったり、心が通い合ったなと思える瞬間、その子らしさがキラッと光る瞬間が何より嬉しいです。にじのこで仕事を始めた時は私にも何かできることがあればと思っていましたが、子どもたちから教わることはわかりです。3年間子どもたちの素晴らしい成長を見せてもらいました。子どもたちと一緒に少しは私も成長していければいいな〜と思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします!

## にじのこの動き

### 4月

- 8(水) プレミアケア職員来所
- 9(木) 合同職員会議 介護職員会議
- 13(月) デイ全体職員会議
- 16(木) 事業等検討委員会  
烏山エリア自立支援協議会運営会議
- 17(金) バザー委員会 デイ給田お話し会
- 20(月) 上町GH内覧会
- 21(火) 烏山地域特定・指定相談支援事業所連絡会  
デイ給田ボラ協職員来訪
- 22(水) 理事会
- 23(木) もったいないバザール説明会 光明教諭来訪
- 24(金) ビジネスマナー研修参加
- 27(月) 苦情対応研修参加
- 28(火) 監査会 都現任研修検討会
- 30(木) 烏山エリア自立支援協議会運営会議  
介護職員研修  
デイ赤堤避難訓練



- 24(日) もったいないバザール参加
- 25(月)~28(木) バザー値付け
- 26(火) 労務研修
- 29(金)~30(土) にじのこバザー

### 6月

- 1(月) 府中けやきの森学園学校公開  
青島特別支援学校公開
- 2(火) 部門相互研修会議
- 4(木) 4部門合同職員会議、事業等検討会  
バザー反省会 東京都現任研修検討会
- 5(金) 青島特別支援学校公開
- 9(火) デイ職員会議
- 10(水) 幼児G園外学習、児童自主勉強会
- 11(木) もったいないバザール報告会  
上祖師谷中公開 労基研修会参加
- 13(土) 経堂小授業参観
- 16(火) 烏山地域特定・指定相談支援事業所連絡会  
烏山小公開  
居宅ネット総会&研修会
- 18(木) 管理監督者会議  
久我山青光学園公開
- 22(月) 介護保険検査説明会
- 23(火) 児童発達支援管理責任者研修参加
- 24(水) 児童発達支援管理責任者研修参加
- 26(金) 烏山要保護児童支援連絡協議会  
意思決定支援による本人主体の相談  
(居宅ネット研修会)
- 27(土) 医療的ケアを要する障害児・者等に関する  
実態調査報告会
- 30(火) キャリアパス中堅職員研修参加



## THANKS

皆さまのご支援ご協力  
感謝申し上げます

- 賛助会員  
岡野 照様 近藤すみ子様  
野田千恵子様 清水治子様  
藤原みづき様 茅野建文様  
八巻丈雄様 村井祐二様  
萬匠範子様 川口陽子様  
山崎富一様 相馬清隆様  
安田 生様 小野 崇様  
宇田英美子様
- 寄付金  
岡野 照様 大坂京子様  
香田恭子様
- ボランティア  
谷口様 お話し泉の会様

## ご支援のお願い

賛助会員として  
ご支援ご協力を  
お願いいたします

### 賛助会費

一口 2000円〜

郵便局口座番号  
にじのこ  
00100-2-535117



特別養育施設  
にじのこ  
**通常総会報告**  
——平成二十七年五月一八日(月) デイサービス給田にて開催——

**平成二十六年 事業実施報告**

■にじのこ事業について

1. 支援や配慮を必要とする障がい児者や高齢者が自分の家を中心として、地域の中で生涯にわたり、自分なりの生活をしていけるように支援をしている。そのため定款上で定めた児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・介護事業・相談支援事業・自主事業を行った。

平成26年度は9月に給田地区会館で行っていた児童発達支援と放課後等デイサービスを切り離した。児童発達支援事業は給田2丁目の戸建て住居を借りて開所。放課後等デイサービス事業はそのまま給田地区会館で行った。それにより幼児・学童とも充実したサービスを行うことができた。他に平成26年度は烏山区民センターの改修工事が26年7月から27年2月まで行われたため、主に自主事業については区の計らいにより、烏山北小学校、給田福祉園をお借りして事業を継続できた。

2. 平成26年度も組織の盤石性をめざし、管理者主任による会議を定着させ、また常勤・非常勤とも情報の共有化をはかり、相互に協力しあう体制を作るよう努めたが、常勤17名、非常勤24名・登録ヘルパー24名、講師6名と情報を共有し、束ねていくのはなかなか難しく、次年度に課題を残した。支援の質を高めるために内部研修を年3回、外部研修への参加を積極的に進め、さらに、他団体に協力し、講師を務める機会を得た。

3. 烏山地域で築いてきた関係機関との関係をさらに広げ、連携した。社会資源の創出に向けていくまではいたらなかった。地域交流を目的として平成26年度も独自のバザーを春、秋に行い、さらにボランティア協会主催の「もったいないバザール」や笑顔せたがや主催の「烏山コミュニティまつり」に参加し、交流を深めることができた。また、今回初めて久我山青光学園での夏まつりに参加し、出店した。

■デイサービス事業について  
——児童発達支援事業——

①幼児グループについて

平成26年度4月は登録人数21名、一日平均登録人数は7名でスタートした。運営面では、前年度から検討を始めた給田デイサービスの単独化を平成26年9月1日より実施した。給田デイサービスから徒歩5分の場所に物件が見つかり、ご近所にも理解を得られたことでスムーズに移行することができ、順調に活動がスタートした。

施設の内では、(株)日産化学工業様より、防災用品や子供用机等、また、世田谷区空き家等地域貢献活用モデル事業に選ばれ助成金を得たことで、ベランダや庭等の整備をすることができた。さらに、単独化前の月曜日の開所は第4のみであったが、単独化後は毎月曜日開所することで、月々金の週5日の受け入れ体制を整えることができた。そして、多目的室ができたことや、午後の時間帯も施設が自由に利用できるようなったことで施設の有効利用が始まった。

——放課後デイサービス事業——

②デイサービスについて

平成26年度は、登録人数43名、一日平均登録人数は13名でのスタートとなった。9月の幼児移転・常勤職員1名採用により、午前中を利用し、面談・学校見学・その他訪問等を行うことができた。職員数が増えたり各施設や事業が独立して運営することが多くなったため、施設内・外の情報共有等、体制作りを力を入れた。安全面では、昨年度に引き続き月1回の避難訓練を行い、職員間で危機管理に対する認識の共有を行った。

③デイサービスについて

平成26年度は登録人数35名、一日平均登録人数は11名でのスタートとなった。ミーティングやケア会議等で情報共有の強化や個別支援の内容の充実を図る等、職員のスキルアップに力を入れることができた。また、共同募金により音楽療法士を採用し、活動内容が充実した。さらに、地域の社会福祉協議会と連携して、ボランティアの受け入れを行う等、地域との交流が広がった。安全面では、昨年度に引き続き月1〜2回の避難訓練を行い、職員間で危機管理に対する認識の共有を行った。

■介護事業について

1. 平成26年度は、登録利用者96名、登録ヘルパー43名でスタートし、支援時間ひと月約130時間の支援を行うことができた。130時間のうち、居宅介護等利用は35%、移動支援利用は64%である。  
2. 特に週末の外出支援をする男性ヘルパーが不足しており、ヘルパーの確保が課題であったが、積極的な採用には至らなかった。  
3. 利用者や保護者が安心して利用できるように、ヘルパーの質の向上を目指したヘルパー会、ケア会議の実施や、サービス担当者による支援会議に参加した。  
4. 介護保険事業については、2件のサービス利用にとどまった。

# 春のバザーを終えて

バザー委員長 深川 麻子



今年の春のバザーは、初日に雨が降り場所の移動が必要になるなど大変なこともありましたが、無事に二日間終えることができました。雨によりバザーの売り上げがどうなるか心配でしたが、杞憂に終わりました。

バザー当日まではいろいろな準備を行いますが、職員・バザー委員だけでなく、保護者の皆さまのご協力が不可欠になります。バザー委員の仕事ですが、皆さまが思うよりも大変ではなく、幅広い範囲で行っています。私自身、母の介護や子どもの体調のことなどで急な委員会欠席もある中、職員の方やバザー委員の皆さまに支えていただき、無事終えることができました。終わってみて、普段会ったこともない先輩お母さん方とお話しする機会が持てたり、子どもたちのために何かができるという達成感があったり、とても良い経験になりました。ぜひ今後お時間の許す範囲で協力いただける方が増えることを思いまします。

職員の方々、保護者の皆さま、地域の皆さま、「協力を本当にお願いします」といっていました。これから皆さまと力を合わせて、子どもたちのためにがんばってまいります。

## 「あ」か「ま」の音で遊ぶ

デイサービスについて 給田 職員 渡辺 一充

昔から口癖で何かと「あ〜」と「ま〜」と繰り返してしまいます。今回のバザーポスターには親しみを感じたのですが、それは「あ」の文字がしばしば組み込まれていたからかもしれません。

幼児の施設に多目的室ができたことで、保護者の方々が自主的に集まって手作りの品制作をしようという動きがあるのを知り、バザー担当職員として直接お話を伺いました。その際、幅広い年代の保護者同士が交流できるような呼び掛けしてほしいという声があったので、全体に向けて呼び掛けました。

保護者のみなさんが大変盛り上がり、気軽に集まって話せる場所を求めていることを強く感じました。私も部分的に顔を出すと、みなさんから叱咤激励(ご)や「あ〜」という言葉が飛び出していました。

施設が増えたとこの活動は広がる一方で、かわわりが希薄になりがちです。ただ、さまざまな年代の方が集う場があるというのは、幼児期から成人期まで途切れない支援を行っているにじのこならではの強みではないでしょうか。売上げのよさに「数値」は反映されませんが、こういう活動を大切にしていきたいと思えます。

秋に向けて何かご提案のある方は、姿を見かけたら声を掛けてください。ね。ま〜「あ〜」を繰り返しますが、話の中心を聞かせています。それが動き出すきっかけです。



— ご報告 —  
5月28日(金)・29日(土)のにじのこ春のバザーへの献品、準備や当日のお手伝い、ありがとうございました。お陰さまで417,122円の収益がありました。次回は11/6日(金)・7日(土)秋バザーを行います。また皆さまのご協力を宜しくお願いいたします。